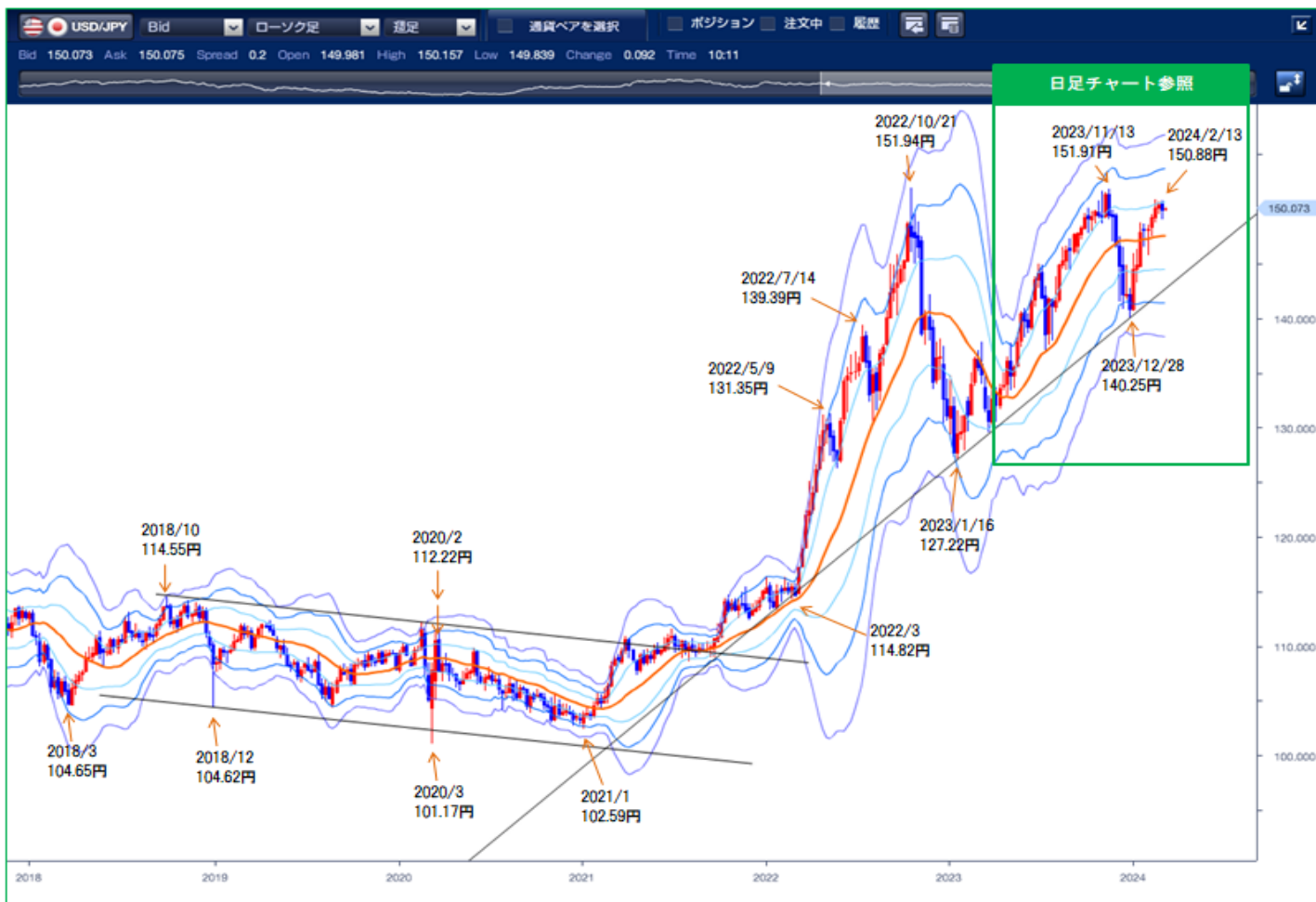


週足



## 長期概況

2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇しました。その後、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由として、調整の流れが強まり、127.22円(1/16)まで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売りは根強く、再び151.91円(11/13)まで値を戻しました。その後、2023年末にかけて日銀のマイナス金利解除の思惑や、FRBの早期利下げ観測により140.25円まで下落(12/28)したものの、2024年に入り、日銀の金融政策に変更が無いことや、FRBの早期利下げ観測が後退したことで再び150円台まで上昇しています。

### 【2024/2/26~3/1】

2/26発表の米2月ダラス連銀製造業活動指数が市場予想を上回る結果となったことでドル買いが強まり、150.83円まで上昇しました。翌2/27に発表された日本の1月CPIが市場予想を上回ったことで、日銀の早期マイナス金利政策解除への思惑から円買いが優勢となり150.07円まで下落したものの、米12月S&Pケースシラー住宅価格指数や米2月リッチモンド連銀製造業指数が予想より強く、150.84円まで値を戻しました。2/29にはハト派の高田日銀審議委員が「2%物価目標実現がようやく見通せる状況になってきた。機動的かつ柔軟な対応に向けた検討も必要だ」とややタカ派的な見解を示したことで円買いが強まり、149.21円まで下落しました。ただ、週末にかけて株価が堅調に推移し、日経平均株価においては史上初の40,000円に迫る上昇となったことから、リスク選好の円売りが優勢となり、150.71円まで持ち直す展開となりました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



## 今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が上向きとなっており、上昇を示唆しています。  
 週足ボリンジャーバンドは、中心線が緩やかな上向きとなっており、上昇を示唆しています。  
 以上のことから、3/4~3/8の週間予想レンジは以下の通りです。

◆ 予想レンジ 147.60円~151.91円

注目レート		テクニカル
上値②	151.91	・2023/11/13高値 ・2022/10/21高値近辺(151.94)
上値①	150.88	・2月第3週高値(2/13)
下値①	149.00	・大台 ・2月第3週安値(2/12 148.93)近辺
下値②	147.60	・週足ボリンジャーバンド 中心線近辺

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。